

## 7. 天国から来た王女（イバナ 北）

時代の初め、ただ神々だけが地球に存在していました。ある力づよい神が地球を支配し、ある神は海を、そして太陽の神は空を支配していました。

太陽の神には、若くいとしいルナと呼ばれる娘がいて、その名前の意味は「月」でした。ルナは、天国で最も美しい少女でした。彼女はピカピカ光る黄金の戦車に乗って、その戦車は三頭の背中に大きな羽のついたすばらしい白馬が引っ張りまわした。毎日、ルナはその美しい戦車で空や天国を徘徊して、彼女の父の偉大な力強い王国の美しさや多様さを賞賛していました。

しかし、ある日ルナは父の王国が大変小さくて、大切なものを失っているように思えました。彼女は空と海が接している不思議な地に気付いたのです。ルナはこの不思議な土地が、わくわくするような美しさであることにびっくりし、それが父の王国よりもうんと美しいことがわかりました。

ルナは、この新しい土地、その美しさを賞賛し、興味を持ったので、彼女はうしろから男の声を聞いて、びっくりしました。「何が私たちの王国にこんな美しい方を運んで、恵みを与えてくれるんだろうか？」とその声は問いました。ルナが振り返ると、若くてハンサムな男と、顔と顔を付き合わせることになりました。彼女の最初の直観は変わっていききました。しかし、彼女はこの若い男に魅了されて、自分が動けなくなっていることに気付きました。「君は誰？」と若い男は続けて、この不思議な女性の美しさを賞賛し、「それで、どこから来たの？」と問いました。

ルナは平静を取り戻しました。「私はルナ。太陽の神の娘。」と彼女は答え、あがってしまいました。「あなたはどなたですか？」「僕はマア。」若い男は答えました。「海の神の子。私たちの王国へようこそ。」マアはルナの方へ歩いてきて、彼女の手をとり、岩のそばで、木陰に座り、お互いのことやそれぞれの王国について話しはじめました。彼らはたくさんのお話をし、そして、お互いの話し相手と楽しくすごして、時間がたつフィリピンの神話と伝説 7. 天国から来た王女

のも気付きませんでした。

「私は元の父の王国へ帰らなければなりません。」ルナはそう言って、黄金の戦車に乗って、羽を持った馬を動かすように駆り立てました。

「帰ってきて、もう一度、明日僕と会ってくれ。」と若い男は懇願し、彼はルナの手の甲に口づけをしました。「そうします。」ルナは約束し、彼女とその馬車は高く昇って雲に入り、見えなくなりました。

その夜、ルナはハンサムなマアのことを考えないではいられなくて、眠れませんでした。そして、言葉のとおり、ひそかに次の日、父の王国から逃げて、新しく見つけた愛と共に過ごしました。

事実、何週間も続けて、彼女の父も知ることなく、ルナは王国を出て、ハンサムなマアを訪ね、毎日ずっと一緒に過ごしました。そして訪問するたびに、ふたりの若者は、お互い深い恋に落ちたのです。

ルナは新しいマアとの関係について、彼女の王国のただひとりに告げました。それは彼女のいとこでした。しかし、彼女のいとこはルナの美しさやマアへの愛のことで、大変嫉妬して、ルナの秘密を太陽の神に告げてしまいました。

彼女の父が、ライバルの海の神の息子との関係を知ると、怒って、もうマアと会うことを禁じました。彼女は神の法を破り、他の王国の者と恋に落ちたのです。彼女は空の王国からもう出られない、と念を押され、太陽の神は天国の園に彼女を閉じ込めました。

空の太陽の神は、海の神に使者を送って、彼の息子マアも神の法を破ってしまったので、罪の罰を受ける必要があることを告げました。そして海の神は息子の行動を怒り、海の洞穴のひとつに閉じ込めました。

その間に、空の園の王国に閉じ込められて、ルナは毎日泣き、彼女の恋人に会いたい、切望して過ごしていました。彼女は父を愛していましたが、残りの生涯を、彼女の真の恋人マアなしに過ごすことは考えられませんでした。

そしてある日、ルナは幽閉から逃れることに成

功しました。馬車に乗って、父の王国から逃れた彼女は、白い羽の生えた馬に鞭打って、すばやく海の王国に着けました。彼女はマアの微笑を見るのを待ちかねていました。しかし、ルナがマアと手を取り、語り合い、口づけした秘密の場所にやっと着いた時、ハンサムな恋人の形跡はありませんでした。ルナは待つ決心をしました。マアはいつかは彼女に会いに着てくれると。

しかし、ルナの夢は達成できませんでした。海の穴の中の牢から、マアは海にいるルナの美しい姿を見ることはできました。彼は牢の穴から必死で出ようとしていました。しかし、たとえどんなに努力しても、マアは残りの生涯、穴の中で生活する運命でした。恋人の腕からは遠かったのです。イライラして、マアは強いゲンコツで彼の穴の壁を叩きました。彼は何度も叩くので、強い振動が波に起こって盛り上がり、穴の壁や岩を砕きました。

ルナは秘密の場所で待ちましたが、しかし空しく、彼女の恋人は現れませんでした。悲しみ、失望したルナは、馬車を駆り立て、空の父の王国に帰って行きました。

しかし、彼女は真の愛を忘れず、彼と会えるかと思い、しばしば最初にマアと会った場所に帰ってみました。しかし、彼女は常に、悲しみと失望のうちに残されました。

今日、北フィリピンのカガヤン谷は、ルナとマアの秘密の会う場所だと信じられています。ルナはまだ、毎月恋人を探しにその場所に来ていると思われています。そして、満月の光が夜空にあがると、人々は、まだ失望して怒っているマアが牢の穴の壁を叩いて、砕ける波を起こして、海は満ちてきます。その現象を大潮と呼んでいます。